



TaKaRa

緑字決算

報告書

2004

2003年度 緑字決算は、 +11ECO を達成しました。



宝酒造は、創立以来「自然」との調和を重視し、環境への影響を配慮した事業活動を展開してきました。1985年の創立60周年を機に制定した企業理念にも「自然」と「社会」と「人間」との調和をうたい、その具現化に向けての活動を行っています。

当社では、「環境活動は生産に携わる一部の部署が行うものではない」という考えに基づき、1997年に全社環境プロジェクト「エコチャレンジ21」を立ち上げ、多角的な環境活動を展開してきました。環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の活動は工場部門からスタートし、昨年度には全支社を含めた国内全事業場での認証取得を完了しました。さらに今年度からは全体最適の観点からの目標設定を行い、より効率的で効果的な環境活動を進めるために、全社統合認証に向けて活動を進めています。これによって、一層の環境パフォーマンスの向上を図っていきたくと考えております。

近年、企業の果たさなければならない社会的責任は多様化し、社会倫理面での活動の強化と情報公開等への要請も高まっています。当社では、2004年4月に「コンプライアンス委員会」および活動を推進する「コンプライアンス推進室」を設置し、誠実で公正な企業活動をより一層進めてまいります。また、本年から次世代を担う子供たちに自然の恵みを実感し、自然を守り育む心を養ってもらうことを目的とした「TaKaRaお米とお酒の学校」を開校したほか、環境NPOとの協働で作成した容器リサイクルに関する啓発読本の提供もはじめました。

宝酒造は、環境に関する取り組みや情報公開をより一層進化させ、豊かな自然を次世代に受け継ぎ、安全と安心を享受できる社会づくりに貢献することによって社会的責任を果たしていきたくと考えております。

環境に関する活動成果を皆様にご報告する「緑字決算報告」は、本年で7回目を迎えました。皆様から率直なご意見・ご批判を賜れば幸いです。

宝酒造株式会社
代表取締役社長

大宮 久



- 1P 目次
- 1P ごあいさつ
- 2P 会社概要
- 3P 緑字のしくみ
- 4-5P 緑字決算チャート
- 6P 緑字決算 6年間のまとめ
- 7P 製品設計
- 8P 原料調達(インプット)
- 9P 生産時インプット
- 10P 生産時アウトプット
- 11P 物流時アウトプット
販売・消費時アウトプット
- 12P 営業・事務部門の環境活動
- 13P 環境マネジメントシステム
- 14P 環境目標の達成状況
- 15P 環境会計
- 16P 環境コミュニケーション
- 17P 社会貢献活動
- 18P お客様とのコミュニケーション
- 19P 製品の安全
- 20P コンプライアンス活動
- 21P 従業員との関わり
- 22P 第三者意見



宝酒造株式会社 概要 (2004年3月末現在)

宝酒造は、2002年4月に分社化し、持ち株会社である宝ホールディングス株式会社傘下において、酒類・食品・酒類事業を展開する中核会社として事業活動を展開しています。

■ 主な事業：酒類、酒類、清涼飲料、調味料、その他食品の製造販売

■ 本社所在地：京都市伏見区竹中町609番地

■ 設立：2002年4月1日

■ 資本金：1,000百万円

■ 売上高：170,055百万円

■ 経常利益：6,998百万円

■ 従業員：1,542人

(2003年3月末 1,597人、2002年3月末 1,912人)

■ 事業場：●本社1

●支社10(支店4)

北海道、東北、関東(支店：千葉、立川、埼玉)、南関東、関西(支店：長野)、東海、京滋北陸、関西、中国四国、九州

●工場6

松戸、橘、伏見、灘、高鍋、島原

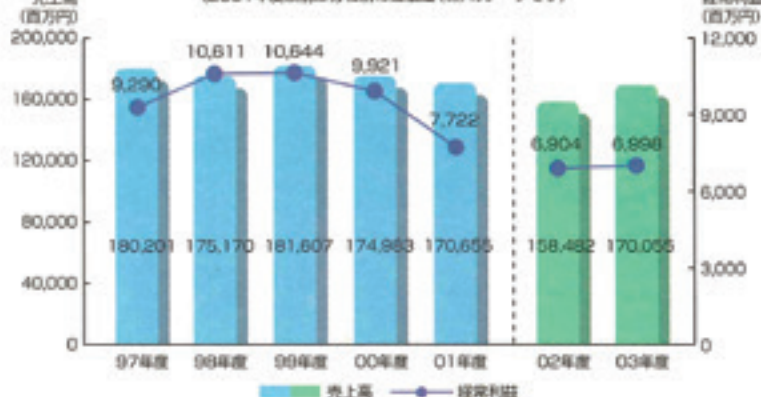
●蔵置場・物流センター3

長野蔵置場、東日本・西日本物流センター

※2004年7月より、富士工場は白壁蔵に、高鍋工場は黒壁蔵に名称変更しました。

過去7年間売上高と経常利益の推移

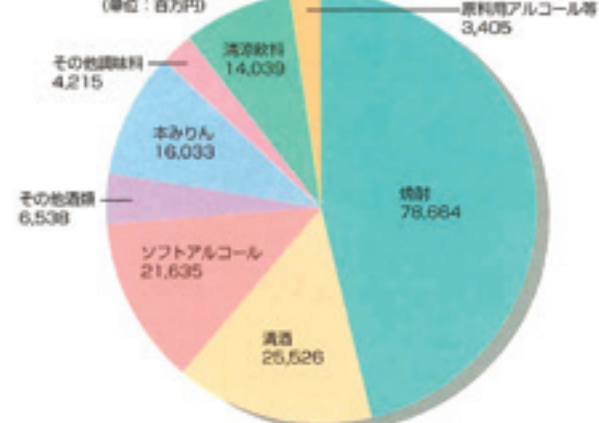
(2001年度以前は分社前の宝酒造(株)のデータです)



事業場案内 → 1 各工場の主要生産品目 → 2

2003年度カテゴリー別売上構成比

(単位：百万円)



企業理念 (1985年9月制定 2001年4月改訂)

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。

環境活動の基本理念 (1999年9月制定)

生産活動は根本的に地球環境に負荷を与える行為です。われわれはこの事実を真摯に受け止め、生産活動に伴う地球環境への負荷の削減への努力、また企業活動の成果である利益の社会還元として自然保護活動等の社会貢献への努力、この2つの努力を企業活動に伴う責務と考え、環境活動を推進します。

「TaKaRa緑字決算報告書2004」編集方針

TaKaRa緑字決算報告書2004は、「消費者の視点」に立ち簡潔でわかりやすい報告書を目指しています。さらに詳しい情報をご希望の方は、インターネットで下記のURLにアクセスし関連する詳細情報をご覧ください。なお、この報告書は環境省の「環境報告書ガイドライン2003」、GRI (Global Reporting Initiative) の持続可能性ガイドラインを参考に作成しています。

■ 報告対象組織：宝酒造株式会社 単体

■ 報告対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日 ※左記の期間以外は年度を記載

■ 対象分野：環境及び社会的側面に関する事項

■ 発行責任者：中嶋 哲(環境広報部長)

■ 発行時期：2004年8月発行(前回：2003年8月発行 次回：2005年8月発行予定)

■ お問い合わせ先：宝酒造株式会社 環境広報部 環境課

〒600-8688 京都市下京区西来通烏丸東入 TEL：075-241-5186 FAX：075-241-5126 E-MAIL：eco@takara.co.jp



緑字決算報告書2004 → <http://www.takarashuzo.co.jp/green04/>

環境への取り組み → <http://www.takarashuzo.co.jp/environment/>



緑字決算のしくみ

緑字決算とは？

企業は、地球から調達した資源やエネルギーを利用したり廃棄物や温室効果ガスを放出するなど、地球環境と密接に関わり合いながら事業活動を行っています。そこで、その地球に対して事業活動における環境面の収支を報告する必要があると考え、導入したのが「緑字(りょくじ)決算」です。宝酒造の原料調達から生産、物流、消費後に至るまでのすべてのプロセスで発生する環境負荷の中から、重要な環境負荷項目を緑字決算対象に選定し、その環境負荷の改善度をECO(エコ)という1つの統合指標で表しました。

緑字という名前は？

経済活動の成果は一般的に「黒字」「赤字」という表現をします。では、環境活動の成果は何字だろう？と考えたときに「緑字(りょくじ)」という言葉が生まれました。

なぜECO(エコ)という1つの指標にまとめるの？

環境問題にはエネルギーの消費やCO₂の排出など、さまざまな種類があり単位や重要度も異なります。また、個々の改善率を見

ても全体でどれだけ環境に対してよくなったのか(悪くなったのか)は簡単にはわかりません。そこで誰でも一目でわかるように、環境活動の成果を統合した1つの指標を作りました。

ECO(エコ)の算出方法

緑字決算対象項目に「重み付け」という5段階の重要度のランク付けを行い、その数字とそれぞれの環境負荷の基準年からの改善率(%)を掛け合わせた上で平均化すること(加重平均)で統合指標のECOを算出しています。

地球環境に対する負荷という観点から「総量」での改善を表しています。

緑字決算の指標に市民の意見を反映

緑字決算対象項目について「宝酒造が改善に取り組むべき重要度」を5段階で答えていただく市民投票をインターネットを通じて行い、その結果を緑字決算ECOを算出する際の「重み付け値」に反映しました。このことは企業だけの視点によらない当社の環境活動推進に大きく寄与すると考えています。



緑字のあゆみ

緑字決算報告書

緑字トピックス

宝環境トピックス

第1期 基準年 1997年度

1998



緑字決算報告書 発行(0号)
グリーンPL表公表

全社環境プロジェクト「エコチャレンジ21」スタート(1997.9)

第1期 報告対象 1998-2000年度(基準年1997年度)

1999



緑字指標「ECO」発表
環境保全効果対比型の
環境会計公表

焼酎エコペット採用(1998.5)
焼酎はかり売り開始(1998.7)

2000



環境NPOによる
第三者意見 掲載

5工場でISO14001取得(1999.3)
「タカラ本みりん」はすせるキャップ採用(1999.12)

2001



インターネット連携版で
詳細情報公開

エコロジーボトル採用(2000.7)
営業事務部門(東京)でのISO14001取得(2000.9)
伏見工場 天然ガススタンド設置(2000.12)

第2期 報告対象 2001-2003年度(基準年2000年度)

2002



「重み付け」市民投票実施
韓国版発行

東日本ロジスティクスセンター稼働、共同物流の推進(2001.10)
e-mission55[®]署名(2002.2)
※ e-mission55：地球温暖化防止のための国際的な発行人に賛同する企業に贈られる

2003



社会性項目追加

全事業場 ISO14001取得完了(2003.2)
「タカラ有機本みりん」タイプⅢ環境ラベル認証取得(2003.2)

2004



緑字 第1期、第2期を
比較紹介

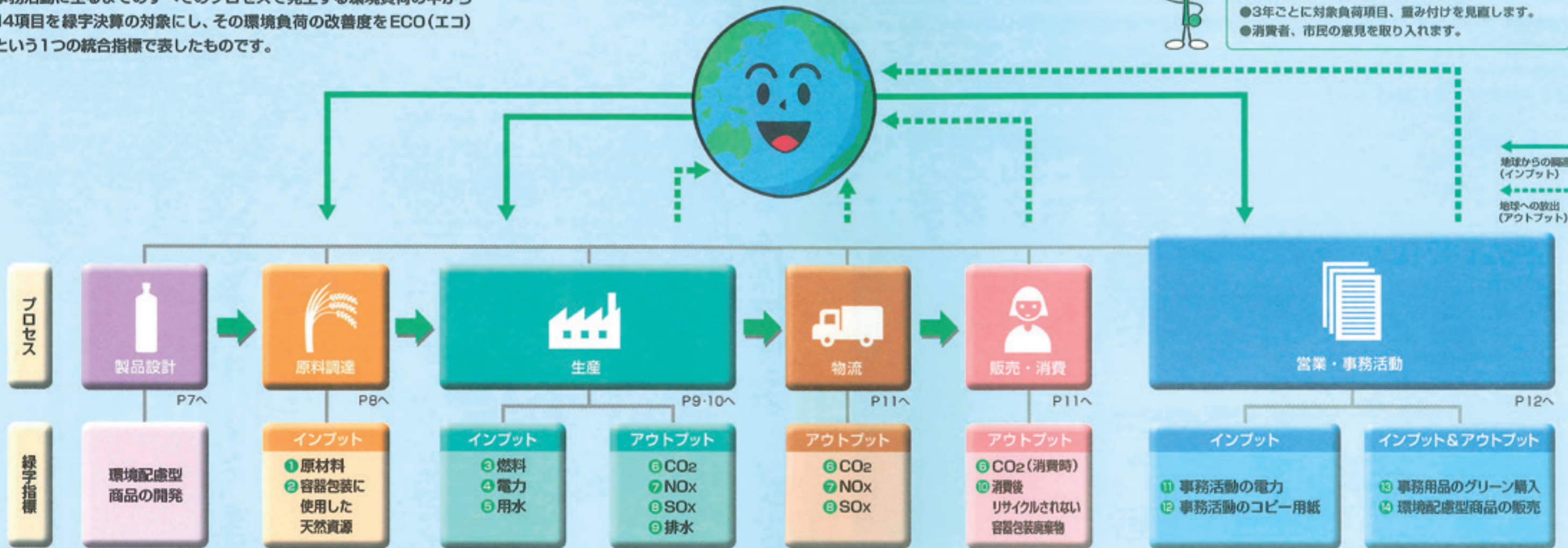
宝焼酎「純」リターナブルびん軽量化(2003.4)
「タカラ有機本みりん」超軽量びん採用(2003.7)
「TaKaRa お米とお酒の学校」開校(2004.4)

緑字決算チャート

宝酒造の「緑字決算」は原料調達から生産、物流、販売・消費、営業・事務活動に至るまでのすべてのプロセスで発生する環境負荷の中から14項目を緑字決算の対象にし、その環境負荷の改善度をECO(エコ)という1つの統合指標で表したものです。

2003年度 緑字決算結果 +11ECO (2000年度対比)

- ### 緑字の特長
- 地球環境に対する負荷の“総量”での改善を表します。
 - わかりやすい1つの指標で表します。
 - 基準年に対する総合改善度を表します。
 - 3年ごとに対象負荷項目、重み付けを見直します。
 - 消費者、市民の意見を取り入れます。



2003年度 緑字決算報告(2003年4月~2004年3月)

	インプット					アウトプット					インプット		インプット&アウトプット	
	原料調達		生産			生産		物流	販売・消費		営業・事務活動		営業・事務活動	
	① 原材料	② 容器包装に使用した天然資源	③ 燃料	④ 電力	⑤ 用水	⑥ CO ₂	⑦ NO _x	⑧ SO _x	⑨ 排水	⑩ 消費後リサイクルされない容器包装廃棄物	⑪ 事務活動の電力	⑫ 事務活動のコピー用紙	⑬ 事務用品のグリーン購入	⑭ 環境配慮型商品の販売
(単位)	千t	t	千GJ	千kWh	千m ³	千t-CO ₂	t	t	千m ³	t	千kWh	千枚	(※1)	百万円
2003年度	133	16,122	949	41,385	4,579	187	174	129	4,206	17,970	2,015	9,178	(※1)	73,934
2002年度	110	17,647	929	39,529	4,751	176	167	134	4,249	17,978	2,282	10,800		67,533
2001年度	115	18,931	927	39,643	5,589	174	164	147	4,658	19,873	2,591	11,877		67,935
2000年度(基準年度)	109	20,757	958	36,917	5,945	177	172	162	4,913	20,741	2,683	11,902		67,872
2003/2000	122.0%	77.7%	99.1%	112.1%	77.0%	105.6%	101.2%	79.6%	85.6%	86.6%	75.1%	77.1%		108.9%
A)改善率	-22.0%	22.3%	0.9%	-12.1%	23.0%	-5.6%	-1.2%	20.4%	14.4%	13.4%	24.9%	22.9%	35.0%	8.9%
B)5段階評価	3	4	4	4	3	5	3	3	3	5	3	3	3	4
C)重み付け値	1.0	1.3	1.3	1.3	1.0	1.7	1.0	1.0	1.0	1.7	1.0	1.0	1.0	1.3
A)×C)個別ECO	-22.0	29.8	1.3	-16.1	23.0	-9.4	-1.2	20.4	14.4	22.3	24.9	22.9	35.0	11.9

生産量を考慮した緑字(※3)	+17ECO
2003年度	340
2002年度	323
2001年度	314
2000年度	320
生産量 03/00(基準年度)	+6%
2003年度 緑字	+11ECO
個別ECO平均値	11.2

緑字決算算出手順

- ① 14の対象項目(①~⑭)のデータの把握
- ② 2003年度の2000年度に対する改善率を算定
- ③ 14の対象項目に対し「宝酒造として取り組むべき重要度」という視点から「重み付け」を実施(市民・研究者・宝酒造の投票結果の平均で決定)
- ④ 14項目の改善率を「重み付け値(5段階評価+3)」で加重平均して緑字決算指標「ECO(エコ)」を算出

(※1) 事務用品のグリーン購入改善率(%)の算定方法は12ページに記載 (※2) 対象商品は7ページに記載 (※3) 生産量の増加は、総量での改善を示すECOの減少につながります。2003年度の生産量は基準年2000年度に比べて6%増加しましたので、生産量の増減を考慮に入れた緑字は6ECO加算され+17ECOとなります。
 ※2002年度緑字決算のデータを精査し、一部修正しました。→ 4

緑字決算 6年間のまとめ

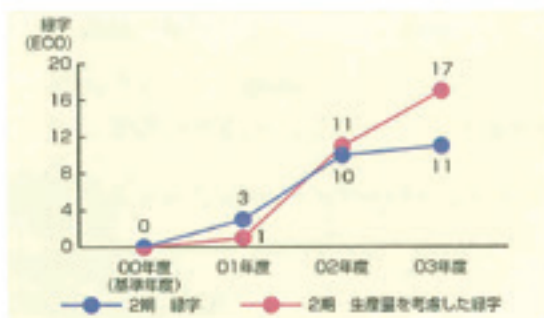
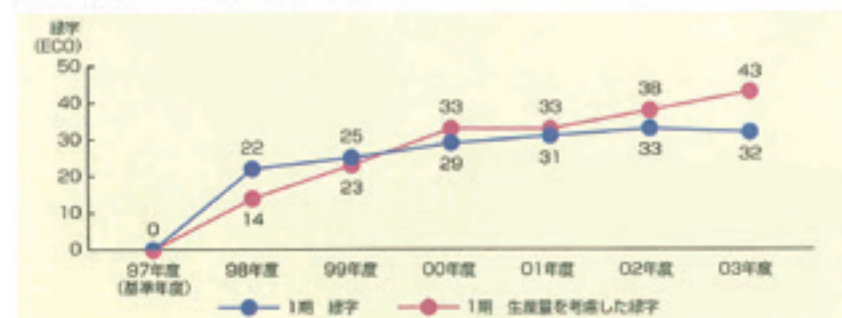
宝酒造は1998年より緑字決算報告書を発行し、様々な環境問題の原因となる環境負荷の改善度を1つのECOという指標を用いて公表してきました。環境問題の重要度や環境活動に対する市民の希望・要望は時代とともに変化します。そこで宝酒造は、3年ごとに「緑字決算」の対象とする環境負荷項目や重み付けの見直しを行い、環境経営の指針づくりに役立てています。

第1期 緑字 1998-2000	インプット					アウトプット								
	原料調達		生産			生産・物流・販売・消費				営業・事務活動				
	原材料	資源効率に寄与した削減活動	燃料	電力	用水	CO ₂	NO _x	SO _x	排水	環境にやさしい工場建設	環境にやさしい製品開発			
重み付け5段階評価	1	4	3	3	1	3	2	2	1	5	4			
重み付け5段階評価	3	4	4	4	3	5	3	3	3	5	3	3	3	4
第2期 緑字 2001-2003	原料調達		生産			生産・物流・販売・消費				営業・事務活動				
	インプット					アウトプット					インプット		インプット&アウトプット	
	原材料	資源効率に寄与した削減活動	燃料	電力	用水	CO ₂	NO _x	SO _x	排水	環境にやさしい工場建設	環境活動の電力	事務活動のCO ₂ 削減	事務用品のグリーン購入	環境配慮型商品の販売



①対象項目を11項目から14項目に増やしました。具体的には新たに営業・事務部門に関する4項目を追加し、再資源化率99%を達成した「工場廃棄物」は除きました。
②インターネットによる市民投票を経て重み付けの変更をしました。

第2期(2001-2003年度)のまとめを報告するにあたり、第2期基準だけでなく第1期基準での実績比較も合わせて行い、1998年度から現在までの活動の推移を緑字決算の単位である「ECO」で検証しました。



第1期基準では、1998年以降廃棄物の再資源化が著しく進んだため、常に20ECO以上を達成していました。そして2001年度以降も、生産量の増減を考慮した緑字では増益が続きました。

第2期基準では、基準を2000年度としたことによりECOは小さくなりましたが、緑字の増益は続きました。

第2期のまとめ(2001-2003年度)

第2期の緑字決算結果は、+3ECO、+10ECO、+11ECOと3年連続で増益となりました。

しかし品質管理の強化や多品種小ロット生産などによる電気使用量の増加により、生産時の電力使用量に関する個別ECOが、3年連続でマイナスとなりました。また2003年度は、生産量が2000年度比で6%増加したため「地球からの調達と放出」の絶対量を指標とする緑字決算では、CO₂排出量やNO_x排出量に関する個別ECOもマイナスとなりました。一方では、第2期で新たに対象項目とした「コピー用紙削減活動」や「事務用品のグリーン購入改善活動」など、社員一人ひとりの地道な努力の結果が反映される営業・事務部門の活動がECOの増益に貢献しました。

個別ECOの推移

(単位: ECO)

	インプット					アウトプット					インプット		インプット&アウトプット		緑字
	原料調達		生産			生産・物流・販売・消費				営業・事務活動					
	① 原材料	② 資源効率に寄与した削減活動	③ 燃料	④ 電力	⑤ 用水	⑥ CO ₂	⑦ NO _x	⑧ SO _x	⑨ 排水	⑩ 環境にやさしい工場建設	⑪ 事務活動の電力	⑫ 事務活動のCO ₂ 削減	⑬ 事務用品のグリーン購入	⑭ 環境配慮型商品の販売	
2003年度	-22.0	29.8	1.3	-16.1	23.0	-9.4	-1.2	20.4	14.4	22.3	24.8	22.9	35.0	11.9	+11
2002年度	-0.9	20.0	4.0	-9.4	20.1	0.9	2.9	17.3	13.5	22.2	14.9	9.3	21.0	-0.7	+10
2001年度	-5.5	11.7	6.0	-9.8	4.3	5.2	2.8	4.7	9.3	7.0	3.4	0.2	8.4	0.1	+3

第3期への課題(2004-2006年度)

緑字決算は、環境負荷項目の「量」を基準に改善率を算出していますが、今後は排水の質やリサイクルの用途など「質」の改善についても考慮すべきと考えます。また、重み付けについても市民の意見を反映しつつ、より合理的で妥当性の高い設定方法を検討していきます。

来年は第3期の1年目にあたり、緑字決算の対象項目と重み付けの見直しを行います。皆様からもご意見をいただければと思います。



製品設計

環境負荷の発生を元から抑える努力を つづけています。

製品設計の段階から環境に配慮することにより、原料調達から生産・物流・販売・消費に至るまでのさまざまなプロセスで発生する環境負荷を低減することができます。その観点から、宝酒造では「環境に配慮した商品開発のための指針」➡ 5 を制定の上、環境配慮型商品の開発についてISO14001の目標に取り入れています。

3Rをさらに進めて4Rを実践しています

中身が消費された後に発生する容器包装廃棄物は、酒類・飲料業界にとって重大な環境問題です。

当社はリデュース・リユース・リサイクルの3Rの活動をさらに進めて、リフューズ(発生回避)を加えた4Rの活動を実践しています。



「はかり売り」でリフューズ(発生回避)を実践しています

現代は資源・エネルギーを使用することにより、人手や手間を省くいわゆる効率化を図ることが一般的です。「はかり売り」はそれと全く逆をいくもので、人手と手間をかけて資源・エネルギーを節約する販売方法です。工場から直送した1kℓや200ℓタンクからお客様が持参した容器に必要な分だけ詰めて販売します。手間はかかりますが、資源・エネルギーの節約と廃棄物の削減になる究極の販売方法で、1998年の開始以来2004年3月までに2.7ℓペットボトルで約222万本、ダンボール約37万枚節約されたこととなります。

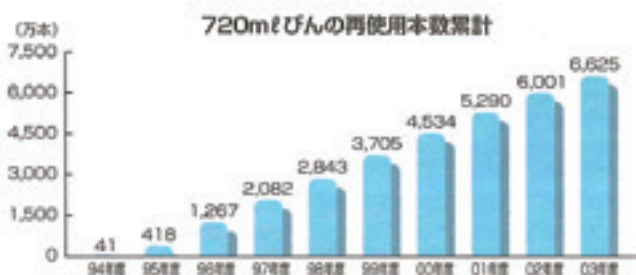


はかり売り

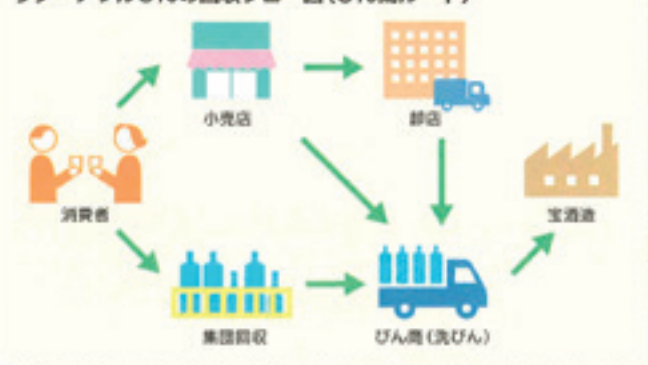
リターナブルシステムの維持に努めています

リターナブルびんを使用することは資源の節約と廃棄物の削減に有効な手段であると考えます。しかしながら、ライフスタイルや流通構造の変化により、一升びんをはじめとするリターナブルびんは減少の一途をたどり、➡ 6 びん商を中心とするリターナブルシステムの存続が厳しくなっています。そこで宝酒造では、1994年から主力商品の宝焼酎「純」、宝焼酎「純」レジェンド720mℓびんをリターナブル化した他、P函レンタル会社や洗びん会社の設立に参画するなど、インフラを含めてリターナブルシステムの維持に努めています。

1994年の開始以来2004年3月までに6,625万本(38,425t)のびんを回収・再使用しました。



リターナブルびんの回収フロー図(びん高ルート)



リターナブルびん・P函



原料調達(インプット)

容器の軽量化により資源の節約を図っています。

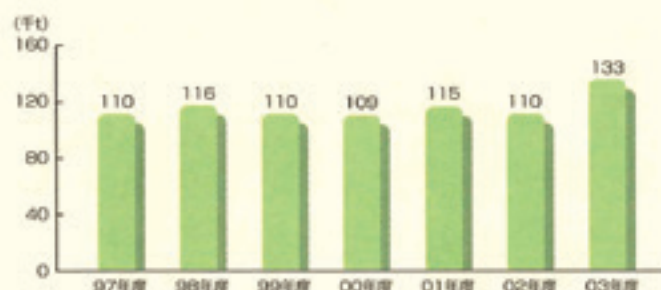
宝酒造が使用する原料は、直接資源の枯渇とは結びつかない農作物などの循環資源と、容器包装に使用される天然資源です。当社は使用した容器包装に占める天然資源量を緑字決算の対象項目にあげ、容器の軽量化など資源の節約に積極的に取り組んでいます。

グリーン調達3Rガイドライン → 11

原料使用量

宝酒造の原料は、アルコール、糖質、米、果汁などの再生可能な循環資源です。

2003年度の原料使用量は、2000年度(基準年度)に対して22%増加しました。



容器の軽量化

容器の軽量化は、容器製造時の資源の節約や輸送時の負荷軽減、消費された後の廃棄物削減にもつながるため、積極的に取り組んでいます。

2002年度に焼酎エコペットの軽量化を実施した他、2003年度は宝焼酎「純」720ml リターナブルびんを580gから530gに9%軽量化しました。

「純」リターナブルびん軽量化



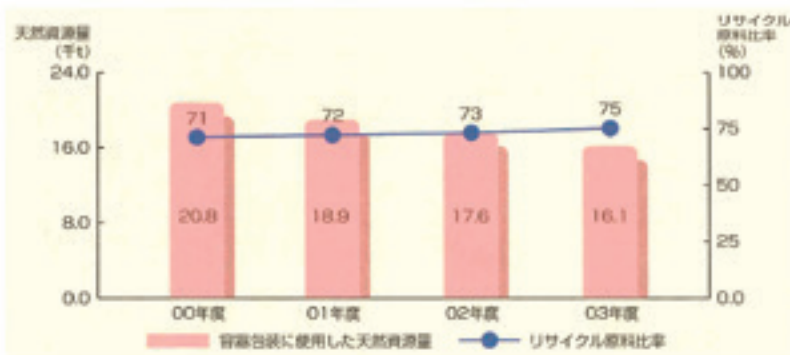
焼酎エコペット軽量化



容器包装に使用した天然資源量

宝酒造が使用した容器包装に占める天然資源量は、2003年度は16,122tで2000年度に対して22%減少しました。これは当社の容器包装使用重量が71,015tから、65,171tへ8%減少したこと、当社の容器包装に占めるリサイクル原料使用比率が71%から75%に4ポイントアップしたことによるものです。

※宝の容器包装に占めるリサイクル原料比率は、宝の容器使用重量にそれぞれの容器のリサイクル原料比率をかけて合計したものを、宝の容器使用重量合計で割ったものです。



	宝酒造容器包装使用量							
	2000年度		2001年度		2002年度		2003年度	
	重量(t)	比率	重量(t)	比率	重量(t)	比率	重量(t)	比率
ガラスびん								
リターナブル	27,151	38%	23,704	35%	21,636	33%	20,013	31%
ワンウェイ	18,231	26%	16,922	25%	16,600	26%	16,272	25%
アルミ缶	4,333	6%	3,896	6%	4,115	6%	4,124	6%
スチール缶	334	0%	549	1%	502	1%	488	1%
紙製容器包装	1,637	2%	1,895	3%	2,016	3%	2,168	3%
ペットボトル	5,641	8%	6,115	9%	5,708	9%	6,626	10%
プラスチック製容器包装	1,145	2%	1,079	2%	1,047	2%	1,204	2%
ダンボール	12,543	18%	12,898	19%	13,084	20%	14,276	22%
合計	71,015	100%	67,058	100%	64,709	100%	65,171	100%
容器包装に使用した天然資源量	20,757t		18,931t		17,647t		16,122t	
宝酒造の容器包装に占めるリサイクル原料比率	71%		72%		73%		75%	

	容器包装に占めるリサイクル原料比率 (%)			
	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
ガラスびん				
リターナブル	78	82	83	90
ワンウェイ	78	82	83	90
アルミ缶	61	57	59	53
スチール缶	15	15	15	15
紙製容器包装	0	0	0	0
ペットボトル	0	0	0	0
プラスチック製容器包装	0	0	0	0
ダンボール	97	97	98	99

リサイクル原料比率の根拠 → 12



生産時インプット

資源・エネルギー使用は重点管理のもと、効率的利用をすすめています。

製品を生産するためには、地球から調達した資源・エネルギーを使用します。この限りある資源・エネルギーを出来るだけ効率よく使用することが、その恩恵をうけている私たちの使命であると考えます。宝酒造では工場の「燃料」「電力」「用水」などの資源・エネルギーの使用量を繰上決算の対象として重点管理を行い、効率的利用に努めています。

工場別データ ▶▶ 13

エネルギー（燃料+電力）使用量

2003年度の生産量1kℓあたりのエネルギー使用量は4.03GJで2000年度（基準年度）比4%減少しました。

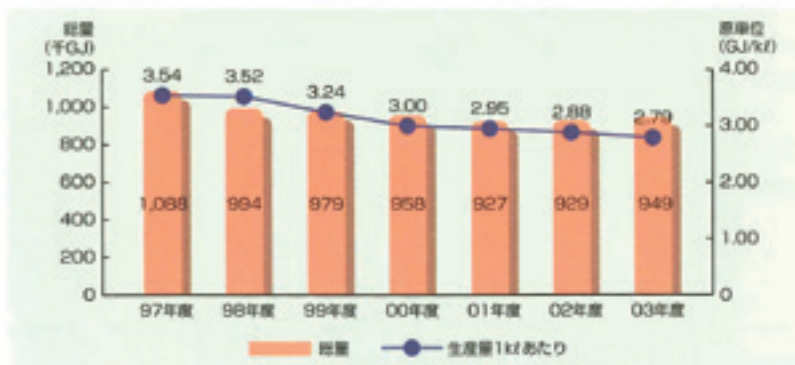
蒸留部門の省エネによる燃料使用量の減少により、相対的にみて電力の割合が高くなってきています。



燃料の使用量

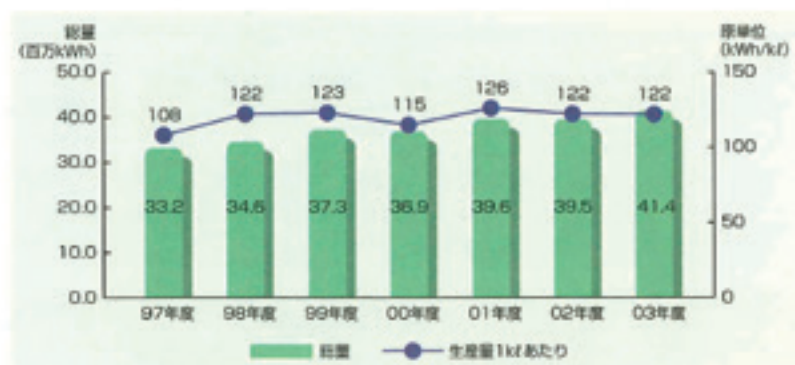
2003年度燃料使用量は949千GJ（原油換算24,480kℓ）で、2000年度比1%減少しました。生産量1kℓあたりでは7%の削減となります。当社の主力製品である原料アルコール生産における省エネルギーの推進をはじめ、廃熱回収再利用、熱効率の向上などに取り組むことで燃料使用量を削減できました。今後もさらなる効率化を目指して活動を進めます。

蒸留部門の燃料使用量 ▶▶ 14



電力の使用量

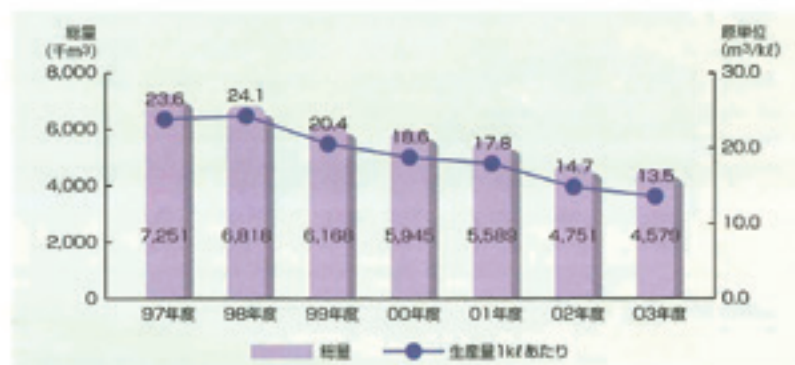
2003年度電力使用量は41,385千kWhで、2000年度比12%増加しました。生産量1kℓあたりでも6%の増加となります。生産拠点の統廃合や省エネルギー設備としてのスチームタービンの稼働、徹底した節電活動の推進により電力量の削減を目指しておりますが、多品種生産や品質管理の強化によって電力使用量が増加しました。今後も引き続き工程改善や省エネルギー機器導入を検討し削減に取り組みます。



用水の使用量

2003年度用水使用量は4,579千m³で、2000年度比23%減少しました。生産量1kℓあたりでは27%の削減となります。工場における徹底した節水活動を展開し、工程用水の見直しと適正化を推進しました。その結果、使用水量を大幅に削減できました。今後も冷却水の再利用、工程水の適正化を推進し削減に努めます。

用水の循環利用 ▶▶ 15





生産時アウトプット

排出削減を重要課題と位置づけ削減活動に取り組んでいます。

工場で製品を生産する過程でCO₂などの気体や排水、副産物、廃棄物などが発生し、地球に放出されます。その中でCO₂・NO_x・SO_xは地球温暖化や酸性雨といった重大な地球環境問題の原因となるため、緑字決算の対象として削減活動に取り組んでいます。

工場別データ ➡ 13

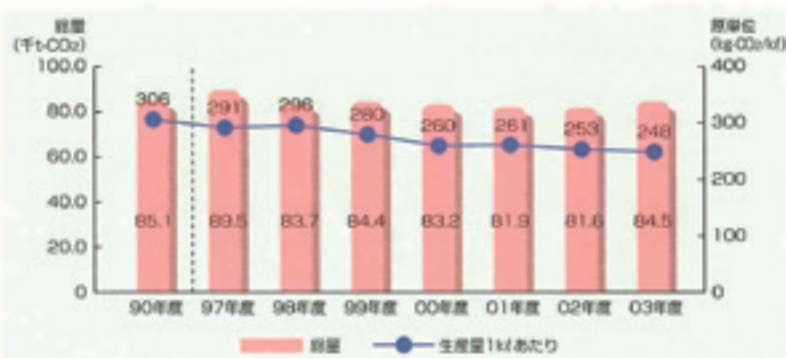
CO₂排出量

2003年度のCO₂排出量は84.5千tで、2000年度(基準年度)比2%増加しました。生産量1kℓあたりでは5%の削減となります。生産量の増加に伴い総量は増加していますが、生産量1kℓあたりでは削減が進んでいます。

今後も、徹底した省エネ活動の推進や廃熱再利用の他に、工場燃料の天然ガス化等を進めます。

※環境目標(P14)の「CO₂排出量」は、生産部門の努力で削減可能な燃料、電力、焼却が対象です。緑字決算にはその他に発酵・製糖・排水処理等で発生するCO₂も含めています。

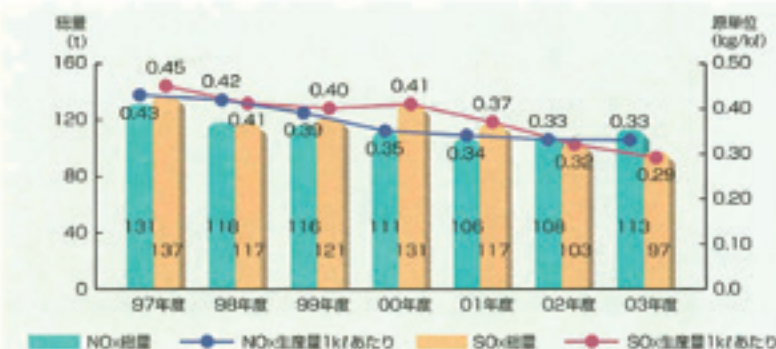
CO₂排出量(燃料・電力・焼却) ➡ 16



NO_x排出量 SO_x排出量

2003年度NO_x排出量は113tで、2000年度比2%増加しました。生産量1kℓあたりでは6%の削減となります。省エネ施策推進他、ボイラー燃焼状態の適正管理等を徹底することでさらなる改善を目指します。

2003年度SO_x排出量は97tで、2000年度比26%減少しました。生産量1kℓあたりでは29%の削減となります。燃料使用量の削減に加えて、天然ガス等の低硫黄分燃料への転換が寄与しています。今後も省エネルギーと低硫黄分燃料への転換により、SO_x排出抑制に努めます。



排水量

2003年度総排水量は4,206千m³で、2000年度比14%減少しました。生産量1kℓあたりでは19%の削減となります。排水量削減は用水使用量の適正化や再利用によるところが大きく、効率的な水利用をさらに進めます。また、工場外への排出に際しては、法規制値の遵守はもとより、自主基準値を設定し管理しています。



工場副産・廃棄物

2003年度工場副産・廃棄物排出量は7,987tで、2000年度比1,616t減少しました。再資源化率は99.6%で、目標値である99.5%をクリアしています。

2003年度の非再資源化量は29tで、2000年度の170tより大幅に減少しました。

2004年度より副産物を除く廃棄物総排出量の削減を新たな活動目標とし、排水処理汚泥削減の検討をはじめ廃棄物排出削減に積極的に取り組みます。

工場副産・廃棄物の用途 ➡ 17

種類	排出量	再資源化率	
		再資源化量	非再資源化量
清酒粕	2,534	2,534	0
汚泥(排水処理)	1,213	1,213	0
みりん粕	1,035	1,035	0
紙くず	747	739	8
動物性残渣	699	699	0
汚泥(排水以外)	638	633	5
ガラス	389	389	0
廃プラスチック類	213	208	5
金属くず	138	137	1
かつお粕	99	99	0
蒸留副産物	82	82	0
ばいじん	61	60	1
木くず	51	50	1
金属くず(アルミ)	46	46	0
廃油	24	23	1
廃アルカリ	11	11	0
もえるゴミ	7	0	7
合計	7,987	7,958	29



物流時アウトプット

効率的な物流システムにより排出ガスの低減を図っています。

製品の物流段階でもCO₂などのガスが発生します。物流段階で発生するCO₂・NO_x・SO_xも緑字決算の対象とし、効率的な物流システム構築によりその排出削減に取り組んでいます。

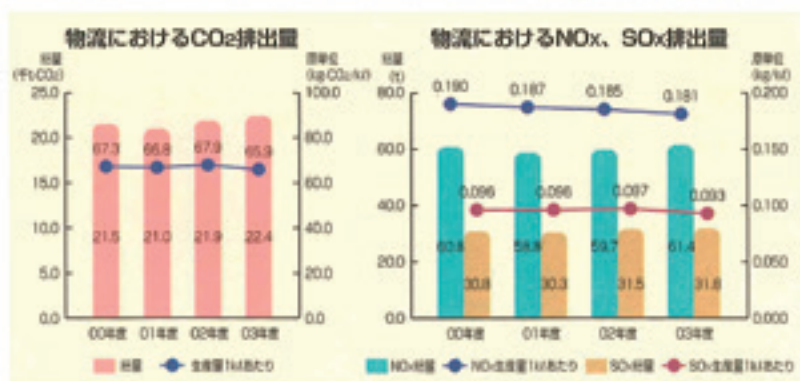
排出ガス量

2003年度のCO₂の排出量は、2000年度(基準年度)に対して総量では4%増加しましたが、生産量1kℓあたりでは2%減少しました。同様にNO_xは総量で1%増加、生産量1kℓあたりでは5%減少しました。また、SO_xは総量で3%増加、生産量1kℓあたりでは3%減少しました。

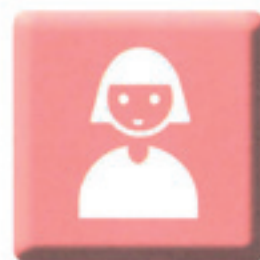
<排出ガス削減対策>

- トラック便のエリア内自給率向上
- 配送拠点の再構築
- 業界他社との共同配送
- 業界統一パレットの導入
- 求貨・求車システムの導入
- エコドライブの推進

➡ 18



物流排出ガス算出方法 ➡ 19 物流環境負荷管理指標 ➡ 20



販売・消費時アウトプット

リサイクルされない容器包装廃棄物の削減に注力しています。

中身が消費された段階で発生する容器包装廃棄物は酒類・飲料業界にとって極めて重大な環境問題です。当社では、使用した容器包装のうちリサイクルされない量を緑字決算の対象とし、製品設計の段階から4R (P7参照) を実践しています。また、容器リサイクルの推進に向けて、業界での活動にも積極的に取り組んでいます。

消費時のCO₂排出量

消費時にはアルコール分解などによるCO₂が発生します。

緑字決算項目のCO₂量には生産・物流で発生するCO₂と共に消費時に発生するものも含めています。



リサイクルされない容器包装廃棄物

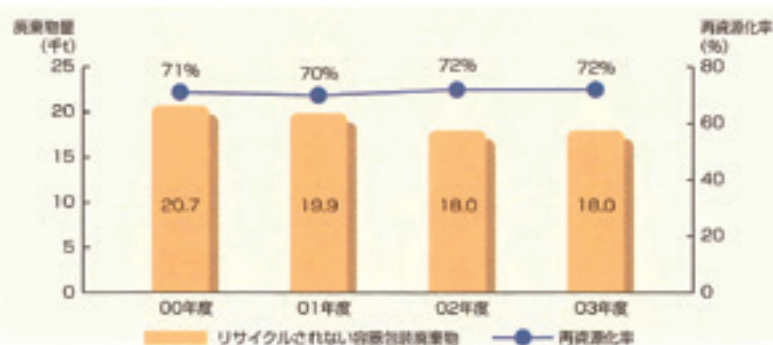
2003年度に宝酒造が使用した容器包装の内、リサイクルされない量は17,970tで、2000年度に対して13%減少しました。これは当社の容器包装使用重量が8%減少したこと、容器包装の再資源化率が1ポイントアップしたことによります。(P8参照)

※宝の容器包装の再資源化率は、宝の容器包装使用重量にそれぞれの容器包装の再資源化率をかけて合計したものを、宝の容器包装使用重量合計で割ったものです。

使用後容器包装の再資源化率 (%)

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
ガラスびん				
リターナブル	90	88	89	88
ワンウェイ	53	53	54	56
アルミ缶	81	83	83	82
スチール缶	84	83	86	88
紙製容器包装	0	0	0	0
ペットボトル	35	40	46	49
プラスチック製容器包装	0	0	0	0
ダンボール	83	87	92	94

再資源化率の根拠 ➡ 21



	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
リサイクルされない容器包装廃棄物	20,741t	19,873t	17,978t	17,970t
宝酒造の容器包装の再資源化率	71%	70%	72%	72%



営業・事務部門の環境活動

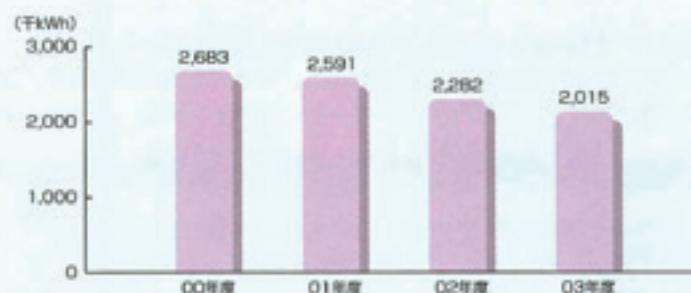
オフィスにおいても、日々環境負荷削減を徹底しています。

オフィス（営業・事務部門）での環境負荷は、工場（生産部門）の環境負荷と比べてそれほど大きくはありませんが、少しでも環境負荷を減らすため、また社員の環境意識の向上のために、支社や本社の営業・事務部門もISOの活動を通じて日々環境負荷削減に取り組んでいます。また、2002年からは緑字決算の対象項目として取り入れ、環境活動意欲の増進に努めています。

オフィスの電力使用量

オフィスの電力使用量削減活動では、昼休みや退社時の消灯徹底、必要に応じた空調の調節など、日常的な省エネ活動に取り組んでいます。

2003年度の電力使用量は2,015kWhで、2000年度（基準年度）比25%の削減になりました。これは原油に換算すると、534kℓ節約したことになります。



オフィスのコピー用紙使用枚数

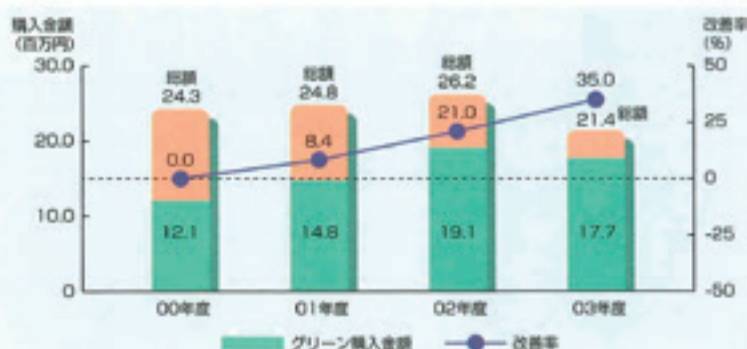
オフィスのコピー用紙使用枚数削減活動は、1998年から全社環境プロジェクト「エコチャレンジ21」の一環として全社でスタートし、現在も活動を続けています。2003年度の使用枚数は9,178千枚で2000年度比23%の削減となり、従業員1人あたり年間約1,400枚を節約したことになります。



事務用品のグリーン購入

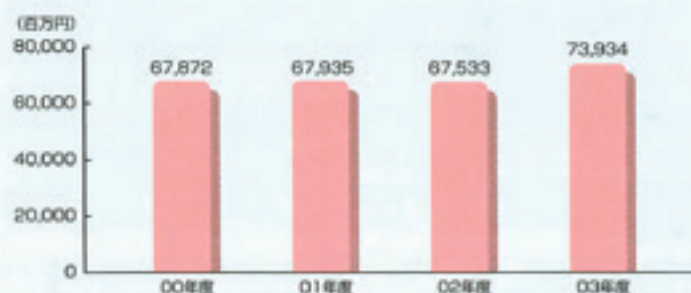
宝酒造では、資源を大切に使うという活動（総購入金額削減）と、グリーン製品購入比率を向上させるという2つの活動を「グリーン購入改善率」という独自の指標に反映させています。2003年度は2000年度に対し、総購入金額では12%削減し、またグリーン購入率は83%で33ポイント向上しました。これによってグリーン購入改善率は35%になりました。

※グリーン購入改善率(%) = (総購入金額の基準年度に対する減少額 + グリーン購入金額の基準年度に対する増加額) ÷ 基準年度総購入金額 × 100



環境配慮型商品の販売

宝酒造の販売する環境配慮型商品のうち、はかり売り、リターナブルびん、エコロジーボトル、エコフロスト、エコペット、有機本みりんの売り上げ実績を緑字決算に算入しています。2003年度の販売実績は73,934百万円で2000年度比109%となりました。販売促進ツール（パンフレットやPOPなど）の中で容器のリユースやリサイクルを呼びかけるなど、消費者の環境意識の向上に努めるとともに、環境配慮型商品の拡売に努めています。





環境マネジメントシステム

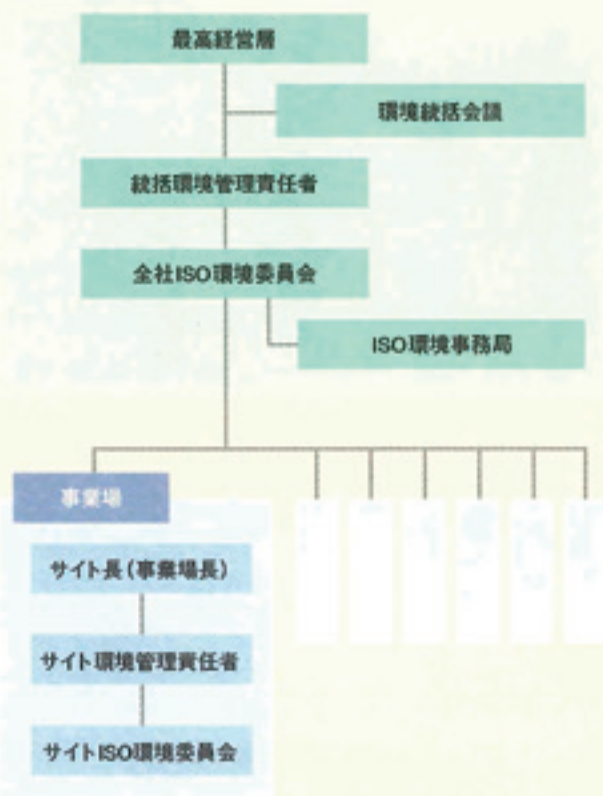
ISO 14001 規格に基づく環境活動の全社統合化を図ります。

宝酒造では2002年度までに国内全事業場である本社（グループ会社を含む）、10支社、6工場でISO 14001の認証取得を完了しました。→ 22 これまでは事業場単位で環境活動を展開していましたが、2004年度からは全事業場のシステムを統合した体制での環境活動をスタートしました。全体最適の見地から、新たに環境目標を設定し全社一丸となって活動を推進しています。

宝グループ環境マネジメントシステム組織図

統合後は、システム全体のコントロールタワーの役割を担うISO環境本部が中心となって環境活動を展開していきます。各サイトの環境管理責任者を構成メンバーとする全社ISO環境委員会により具体的な環境活動を推進していきます。

ISO環境本部



(注) ISO 14001における宝グループとは、宝ホールディングス(株)、宝酒造(株)、(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)で構成されています。

宝グループ環境方針の制定

ISO全社統合に際し、新たに環境方針を制定いたしました。

宝グループ環境方針

1. Takaraの企業理念

「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」
この基本理念に基づいて、宝グループは積極的に環境保全に取り組み、豊かな社会づくりに貢献します。

2. 基本方針

宝グループの業務内容は、宝グループ全体の経営資源配分等グループ戦略の推進やIR活動および酒類・食品・酒類事業全般とこれを支援するマーケティング調査・人材派遣、IT化支援など多岐にわたっています。これらの活動が環境に与える影響を的確に把握し、地球環境保全に貢献するために、次の基本方針に基づき活動します。

- (1) 地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題の一つとして取り組みます。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。
- (3) 環境に関する法規制および組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (4) 事業活動全般の環境影響評価を的確に行い、技術的、経済的に可能な範囲で目的・目標を定めて実践し、また定期的に見直すことにより環境パフォーマンスの向上を図ることを約束します。
- (5) 宝グループが行う事業活動の中、特に以下の項目について優先的に環境保全活動を推進します。
 - ① 天然資源を大切に、省資源・省エネルギーに努めます。
 - ② 環境に配慮した商品開発に努めます。
 - ③ グリーン購入に努めます。
 - ④ 環境活動への取り組み、環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- (6) 本環境方針は、教育啓蒙活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

なお、本環境方針は、一般の人が入手可能なものにします。

2004年4月1日

宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長
宝酒造株式会社 代表取締役社長

大宮 久

環境関連法規遵守状況

宝酒造では環境汚染の未然防止の観点から、法令遵守はもとより自主基準やガイドラインを設定し環境管理に取り組んでいます。全事業場で認証取得したISO 14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法令遵守状況を確認しています。なお、2003年度は環境関連法規に対する違反事項はありませんでした。

【主要な環境関連法規】

公害関係法規(大気、水質、騒音、振動、土壌汚染、悪臭)、廃棄物処理関係法規、化学物質管理関係法規(PRTR法、毒物劇物取締法)、リサイクル関係法規(容器包装リサイクル法、食品リサイクル法、資源リサイクル法)、防災・危険物関係法規 等



環境目標の達成状況

4項目の目標をクリア。全社の環境活動で改善をすすめていきます。

2003年度の生産量を考慮した緑字は+17ECOとなり、2002年度+11ECOに対して6ECOの増益となったのをはじめ、6項目中4項目で目標を達成することができました。しかしながら、昨年に引き続き「生産部門省エネルギー」「生産部門CO₂削減」が目標未達成におわりました。

2003年度の環境目標達成状況

生産部門省エネルギー、生産部門CO₂削減とも品質管理の強化、小ロット生産による生産効率の悪化等で電力の使用量が増加したことが目標未達の主要原因です。2002年度比では3%の削減となっています。生産部門の省エネルギー、CO₂削減には設備投資を必要とすること、生産部門の省エネルギー活動だけでは解決できない問題も含んでいることから、目標を見直すとともに商品開発段階からの対策を進めます。

評価 達成が○、80%以上達成が△、80%未満が×

項目	中期目標(2001年9月制定)	2003年度目標	2003年度実績	評価	参照頁
1 生産量を考慮した緑字 ※2002年9月制定	毎年 2 ECO増益	2002年度対比 2 ECO増益	2002年度対比 6 ECO増益	○	P4、5
2 生産部門省エネルギー (燃料+電力使用量)	2004年度 2000年度対比8%削減(生産量1kあたり)	2000年度対比 7%削減	2000年度対比 4%削減	×	P9
3 生産部門用水削減	2004年度 2000年度対比9%削減(生産量1kあたり)	2000年度対比 9%削減	2000年度対比 27%削減	○	P9
4 生産部門CO ₂ 削減 (対象:燃料・電力・焼却)	2004年度 2000年度対比13%削減(生産量1kあたり)	2000年度対比 12%削減	2000年度対比 5%削減	×	P10
5 工場廃棄物再資源化	再資源化率99.5%以上 (※2003年8月改訂)	再資源化率 99.5%以上	再資源化率 99.6%達成	○	P10
6 エコ商品の開発	環境配慮型の工夫仕込みを持つ 商品を1品目以上発売	1品目以上発売	・有難本みりんエコマーク認定びんの採用 ・純リターンブルびん軽量化	○	P7、8

環境目標の見直し

2004年度のISO14001統合により、環境活動の全社的な目標設定を行い、その目標を各サイトに展開する形で活動推進を行うこととしました。それにともない、2001年9月に設定した中期目標を精査した上で見直し、2004-2006年度の目標設定を行いました。今回の見直しで営業・事務部門も含む全サイトで推進する目標設定も行いました。

宝グループ 環境目標(2004-2006年度)

項目	2004年度目標	2005年度目標	2006年度目標
1 生産部門 省エネルギー (原油換算 生産量1kあたり)	2000年度対比 5%削減	2000年度対比 6%削減	2000年度対比 7%削減
2 生産部門 用水削減 (生産量1kあたり)	2000年度対比 31%削減	2000年度対比 33%削減	2000年度対比 34%削減
3 工場廃棄物(副産物含まず) 排出量削減(生産量1kあたり)	2000年度対比 40%削減	2000年度対比 42%削減	2000年度対比 44%削減
副産・廃棄物再資源化率	再資源化率99.5%以上	再資源化率99.5%以上	再資源化率99.5%以上
4 コピー用紙削減	2001年度対比 32%削減	2001年度対比 39%削減	2001年度対比 50%削減
5 グリーン購入推進 (対象:コピー用紙除く事務用品)	グリーン購入率 72%	グリーン購入率 76%	グリーン購入率 80%
6 エコ商品の開発	環境配慮型の工夫仕込みを持つ 商品を2品目以上発売	環境配慮型の工夫仕込みを持つ 商品を2品目以上発売	環境配慮型の工夫仕込みを持つ 商品を2品目以上発売
7 環境コミュニケーション推進	環境報告書の配布部数 11,000部以上	環境報告書の配布部数 11,000部以上	環境報告書の配布部数 11,000部以上



環境会計

宝酒造では「米国式」「欧州式」の2方式を同時に実施しています。

環境会計には貨幣を基準とした米国式とCO₂など環境負荷の物量を基準とした欧州式があります。宝酒造では欧州式をベースとした緑字決算と米国式のコーポレート環境会計を同時に実施することで環境経営に役立てたいと考えています。

環境コストと環境効果 ~2003年度コーポレート環境会計

コーポレート環境会計では、環境保全にいくらコストがかかったか、またそれによっていくら収入・効果を得たかを計算します。環境関連の収支を明らかにして投資や費用に対する効果を知ること、環境経営の効率化・合理化を図るための目安として活用します。



環境保全のためにいくら費用を使ったの？

宝酒造の環境コストには、生産部門環境負荷削減コストの他ISO14001を運用するためのコストや、はかり売り・リターナブルなどエコプロダクツのシステム運営にかかるコスト、社会貢献活動にかかるコスト、容器包装リサイクルにかかるコストなどが計上されています。

コーポレート環境会計

(集計範囲：宝酒造 単体対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日)

※ホームページには環境コストの集計方法及びコストの内訳(環境省ガイドラインによる公表用A-2表)を掲載しています。➡ 24

投資目的			投資	費用	投資目的			投資	費用
事業 エリア内 コスト	①公害防止コスト		26,372	96,587	研究開発 コスト	①環境保全に資する製品等の研究開発コスト	0	0	
	②地球環境保全コスト		3,107	28,054		②製造設備の環境負荷抑制の研究開発コスト	0	384	
	③資源循環コスト		7,508	201,922		③その他、施設・販売店舗等における環境負荷抑制の研究開発コスト	0	0	
	小計		36,987	326,562		小計	0	384	
上・下流 コスト	①グリーン購入・調達との差額コスト		0	1,256	社会活動 コスト	①事業所及び周辺を除く環境改善対策コスト	0	4,130	
	②環境物品等提供のための追加コスト		0	13,979		②環境保全団体等に対する寄付、支援コスト	0	7,029	
	③容器包装等の低環境負荷化のための追加コスト		0	33,224		③地域住民への環境活動支援及び情報提供等の社会的取組コスト	0	11,614	
	④製品・商品等の回収、リサイクル、再商品化、適正処理コスト		0	457,688		小計	0	22,774	
	⑤その他の上・下流コスト		0	3,485		①自然修復コスト	0	0	
小計		0	509,612	環境損害 コスト	②環境保全に関する損害賠償等コスト	0	0		
管理活動 コスト	①環境マネジメントシステムの整備、運用コスト		0	212,898	③環境の損傷に対応する引当金繰入額及び保険料	0	100		
	②環境情報の開示及び環境広告コスト		0	44,963	小計	0	100		
	③環境負荷監視コスト		9,982	25,824	合計	46,968	1,575,077		
	④従業員への環境教育等コスト		0	4,045	2003年度 宝酒造 設備投資額 総額 3,544,731千円				
	⑤事業所及び周辺の環境改善対策コスト		0	10,345	研究開発費 総額 459,750千円				
小計		9,982	298,074						



環境保全推進の結果、どれだけコストダウンや収入効果がでたの？

環境活動の主目的は環境負荷低減です。しかし二次的効果として管理費の削減やエコプロダクツを採用することによるコストダウン・販売促進効果などがあります。宝酒造ではその中から、「明らかに金額換算できるもの」を効果として公表しています。

環境効果

(単位：千円)

内容	金額	備考
生産部門のリサイクルにより得られた収入	22,264	
生産部門の省エネルギー活動全体による効果	25,321	
生産部門の産業廃棄物処理費コストダウン	8,210	
事務部門の省エネルギー活動によるコストダウン	5,340	前年実績からの削減率：1kWh20円で計算
事務部門のコピー用紙削減活動によるコストダウン	973	前年実績からの削減率：1箱(2,500枚入り)1,500円で計算
全社の事務用品の総購入金額削減活動によるコストダウン	4,800	前年実績からの削減金額

環境保全効果対比型環境会計

コーポレート環境会計で集計した環境コストを、環境負荷量の改善率を表した14の緑字決算対象項目とその他の費用に配分し、各項目の緑字1ECOを生み出すのに要したコストを比較します。



緑字1ECOあたりいくらコストがかかっているの？

2003年度は特に生産時の燃料と容器包装廃棄物に対する対策に、1ECOあたりのコストがかかりました。

(単位：千円)

	インプット					アウトプット					インプット		インプット&アウトプット		総合赤字の 1ECO あたりの コスト
	原料調達		生産			生産・物流・販売・消費				営業・事務活動					
	① 原材料	② 容器包装に 使用した 天然資源	③ 燃料	④ 電力	⑤ 用水	⑥ CO ₂	⑦ NOx	⑧ SOx	⑨ 排水	⑩ 資源リサイクル 率の向上 による削減	⑪ 事務活動の 電力	⑫ 事務活動の コピー削減	⑬ 事務用品の グリーン購入	⑭ 環境に配慮 商品の販売	
緑字1ECO	-22.0	29.8	1.3	-16.1	23.0	-9.4	-1.2	20.4	14.4	22.3	24.9	22.9	35.0	11.9	11ECO
各活動の環境コスト	11,622	228,531	18,638	18,789	11,622	40,010	31,643	31,643	49,984	347,139	11,622	11,622	12,878	28,802	854,547*
1ECOあたりコスト	-	7,669	14,337	-	505	-	-	1,548	3,472	15,567	467	508	368	2,420	77,686

*総費用から緑字対象項目に関連しない費用をひいた金額



環境コミュニケーション

情報を開示し、市民の方々との対話を大切に環境活動をすすめています。

宝酒造は、常に社会の声・市民の声を聞きその時代に合った環境活動を進めるため、緑字決算報告書やホームページ、展示会などを通じて双方向のコミュニケーションをはかっています。また、環境NPOとの協働や産官学の連携に努め、社会や市民との対話を心がけています。

インターネットで環境情報を開示

宝酒造の環境サイト「環境への取り組み」では、常に新しい活動状況を公開しています。また、子供から大人まで一緒に学べる環境教育材料として、「森のリサイクル工房」「容器リサイクルの旅」「わかりやすい容器リサイクル」などのコーナーを設けています。

さらに、アンケートのページや環境に関する問い合わせ窓口を設けることで、お客様から直接ご意見をいただけるようにしています。2003年度にお客様からいただいた環境に関するメールは250件になりました。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/>



環境報告書の発行

宝酒造は、1998年から緑字という独自の指標を用い、地球環境に関する収支決算を「緑字決算報告書」という形で開示しています。報告書にはアンケート用紙を同封し、返信いただいたお客様の声を環境活動や次年度の報告書作成の参考にしていきます。2003年度は9000部発行し、70通の回答をいただきました。➡ 26

また緑字決算の対象項目の重み付けは、インターネット投票を通じて行ったり、第三者意見を2000年版より環境NPO「気候ネットワーク」にお願いするなど市民の意見を積極的に取り入れています。



NPOとの協働プログラム

宝酒造ではNPOとの協働を進めることで、WinWin(どちらにもいい効果をもたらすこと)の関係を目指しています。

- ・「日本環境倶楽部」との協働プログラムとして、飲み物容器のリサイクル啓発冊子「TaKaRaリサイクルロード」を発行しました。
- ・「森の学校」との協働プログラムとして、「TaKaRaお米とお酒の学校」を立ち上げました。

エコプロダクツ展に出展

2002年度より我が国最大規模の環境総合展「エコプロダクツ展」に出展しています。2003年度はパネル展示の他、エコプロダクツについてより知っていただくために「パネルを読んでクイズに答えよう!」企画を実施しました。学生やファミリー、会社員の方など約1,200名の方にクイズに回答していただき、宝酒造のエコプロダクツについて知っていただくことができました。



市民・行政との連携

環境問題の解決には市民との連携が不可欠になります。宝酒造では、環境経営、町の美化、容器問題などについて市民とともに考えていきます。

- ・「環境産業を育てよう交流会」にて行政・事業者との情報交換
- ・京都環境フェスティバル「リターナブル容器について学ぼう」にて宝酒造の環境活動説明
- ・NPO法人「ゴミゼロネット大阪」総会にて講演
- ・水問題シンポジウムに参加
- ・京都まち美化推進事業団に加入
- ・京都ゴミ祭りに参加
- ・ECOライフスタイル展にて環境展示の実施
- ・京(みやこ)エコプロジェクト2003にて環境展示実施
- ・「市民水の日 春をよぶ・水辺美化ウォーキング」に参加

大学との連携

大学で環境について学ぶ学生への講演、インタビューなどを通じて積極的に交流をはかり、産学の連携を進めています。2003年度は京都精華大学、関西国際大学、龍谷大学、立命館大学、大阪産業大学、学生NGO「STEP」に対し、環境活動についての説明などを行いました。

社員とのコミュニケーション

- ・社内報に活動状況を掲載
- ・新入社員研修や新任管理職研修などで環境教育を実施
- ・ISO組織を通じて定期的に環境教育を実施
- ・社内データベース「エコチャレンジ21」に環境情報を掲載





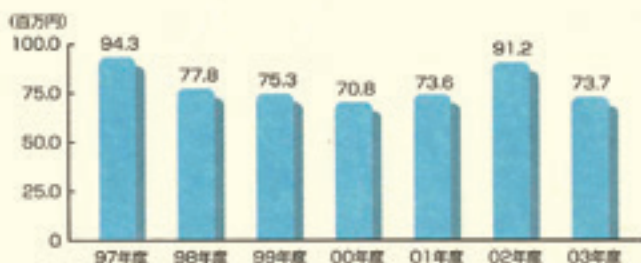
社会貢献活動

「自然の恵みを自然にかえす」。この企業精神から活動を展開しています。

宝は田から「宝」の語源は「田から」にあり、宝酒造の社名もそこに由来します。

自然が育んだ田畑の恵みに感謝し敬意を払うという概念から、現在の企業理念の元となる「自然の恵みを自然にかえす」という企業精神が生まれました。宝酒造は、1979年に北海道豊平川で発足した市民活動「カムバックサーモン運動」への協力に始まり、今日まで様々な社会貢献活動を行ってきました。

社会貢献費用の推移



2003年度の社会貢献費用は、海岸清掃活動「TaKaRaクリーンcanウォーキング」(神奈川・湘南)を2002年度で終了したことから、2002年度比では81%と減少していますが、2000年度に対しては104%で増加しています。

TaKaRaお米とお酒の学校 設立

2004年4月、環境NPO「森の学校」と協力し、小学生以上の子供と親を対象として「お米づくり・お酒づくり」を体験を通じて学ぶ「TaKaRaお米とお酒の学校」を設立しました。農業体験のほか田んぼの周りの生態やあそびを体験したり、未成年飲酒の危険について親子で学ぶことにより、環境意識の育成と社会ルールの啓発を目指しています。



TaKaRaリサイクルロード発行

飲料メーカーの社会的責任である飲み物容器のリサイクルについて、まんがでわかりやすく説明する冊子を、環境NPO「日本環境倶楽部」と協力して製作しました。対象年齢は小学校高学年以上で、全国の小中学校の希望者に配布しています。



TaKaRaハーモニストファンド



自然環境保護に関する活動及び研究を進める団体や個人に助成を行っています。2003年度で18回目を迎え、第1回からの助成件数はのべ197件、助成累計金額は9,475万円になりました。

また、2004年度からは、ポイント制福利厚生制度の中でハーモニストファンドへポイントを寄付することにより、社員が個人として自然保護活動を応援することができるようになりました。

クリーンアップ活動支援

地域の清掃活動の発展のため、四万十川財団、かながわ海岸美化財団、福島県などに対し、2003年度までに合計5万8,000枚のゴミ袋の贈呈を行いました。



社員のボランティア啓発

社員の個人的なボランティア活動に対し自社の製品を提供する「マッチングギフト制度」を導入するなど、社員のボランティアの啓発に努めています。その他、2000年度から全事業場で古切手、使用済みテレホンカード、オレンジカードなどの回収運動を実施し、養護施設や発展途上国支援のために役立てています。

また宝酒造労働組合では全国一斉に事業場付近の清掃活動「地球びかびか大作戦」を実施するなど、地域の景観美化についても社員が積極的に参加しています。



その他の社会貢献活動

- ・北海道遺産を守ろうキャンペーン
- ・長野の宝を守ろうキャンペーン
- ・福島県 阿武隈川きらきらキャンペーン
- ・千葉県 なのはなキャンペーン
- ・自転車タクシーVELOTAXIへの協賛
- ・アースデイへの協賛
- ・芝生スクール京都への協賛
- ・青少年のための科学の祭典2003への協賛 など



お客様とのコミュニケーション

お客様の声を大切に、商品開発・サービスを提供しています。

宝酒造は、お客様に満足していただける商品やサービスを提供し続けるために、お客様とのコミュニケーションを大切にしています。また、お客様の立場に立った商品開発を推進するとともに、飲酒と社会との調和を図っていくことも重要だと考えています。

お客様とのコミュニケーション

お客様相談室

宝酒造では、お客様の声に謙虚に耳を傾け誠実に対応しているため1996年に「お客様相談室」を開設しお客様からのご質問やご意見・ご要望を承っています。

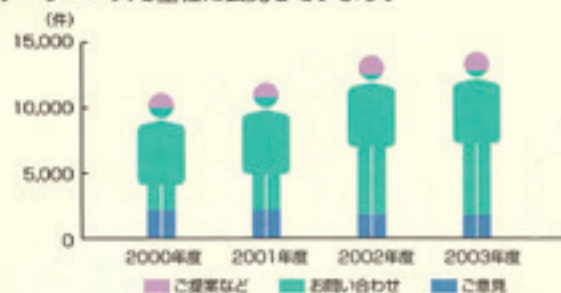
お客様相談室のモットー



お客様相談の状況

2003年度に寄せられた「お客様の声」は約14,000件(前年度比102%)で、その内お客様が当社の商品や企画などについて何らかのご不満を感じられ、ご意見をいただいた事例は約1,700件(前年度比94%)ありました。当社ではその声を真摯に受け止め、お客様に満足いただける商品や企画づくりに努めています。

また、社員一人ひとりがお客様の声を理解し「お客様の視点」で仕事を進めていくために、プライバシーを保護した上で社内のデータベースで全社に公開しています。



製品改良事例

お客様からのご不満の声に対しては速やかに関連部署にて調査を行いお客様にご報告させていただくとともに、改善すべき点についての対応を図ることにより、よりよい商品づくりに役立っています。



「お客様の声」をうけて、2004年2月に「タカラ本みりん(純米)」のキャップを「いたすら防止」キャップに変更しました。



カバー取り外し前



カバー取り外し後

飲酒問題

「Say No」運動

当社はお酒を製造・販売する企業の社会性、倫理性を重視し、現在のように飲酒問題が社会問題化する以前から、節度ある飲酒を呼びかける活動を展開してきました。

適正飲酒啓発パンフレット「Say No! Press」発行

1986年に「Say No」運動の一環として適正飲酒を啓発するパンフレット「Say No読本」を発行しました。これはお酒に対する正しい知識を深めていただき、ルールを守ってお酒と上手につきあっていただくことを目的に作成したものです。その後1995年に改訂し、現在は「Say No! Press」と名称変更し適正飲酒の啓発に活用しています。



「妊産婦飲酒の注意表示」実施

2004年7月より酒類製品に順次、妊産婦に対する飲酒の注意表示を開始しました。



果汁、糖、香料、紅花色素
容量：350ml

妊産中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。

ロット記号・製造所固有記号・賞味期限(年月)は底に表示

ユニバーサルデザイン

1995年から誤認飲酒防止のため、国内で初めてタカラCANチューハイの缶蓋に点字で「おさけ」表示をいれました。また、2002年から酒類紙パックのキャップ部分にも点字で「おさけ」表示をいれました。これも酒類の紙パックでは国内で初めてです。



点字缶蓋



点字キャップ



製品の安全

安全で安心できる商品づくりのため、厳しいチェック体制をとっています。

お客様に安全な商品をお届けできるように商品の企画、設計から原材料の調達、製造、出荷に至るまであらゆるリスクを予測し、想定されるリスクについては商品の安全が保証できるレベルまで低減させるための厳しいチェックを行っています。

品質保証体制

商品の品質、安全性、安定性や製造工程、検査方法等が適切に設計されていることを客観的に検証するため、2002年4月より「品質保証部」を技術開発・製造部門から独立させ、品質保証体制を強化しました。

また、お客様の食品表示への不信任が高まっていることに対応し、2003年4月に品質保証部の中に「品質表示課」を設置し、表示に関する社内審査の強化を図りました。

品質保証の流れ



製品の設計・開発

「品質保証部」は商品企画、基本設計、詳細設計のステップごとに、開発に携わる関連部署を集めて協議し、問題点の抽出と必要な対応策を指示します。その処置がなされたことを確認した上で商品設計の最終承認を行います。

原材料の安全性

安全な原材料を調達するため、原材料の特性に応じた成分規格、微生物規格、有害成分規格等を「品質規格」として定めています。特に残留農薬、食品添加物、有害成分に関しては供給先の協力を得て食品衛生関連の諸法令に違反していないことを厳密にチェックし、品質規格への適合が確認できるものだけを使用しています。

また、主要な原材料に関してはリスク評価に基づいて特別管理品目を選定するとともに、その供給先を定期的に訪問し、品質管理状況の監査・指導を行っています。

品質表示

「品質表示課」は食品表示に関する法規適合性(原料、添加物、アレルギー、遺伝子組み換え等)や事実と反する表示の有無を審査し、関連部署へ指示・指導を行っています。

また、表示に関する法基準、公正競争規約や自主基準等を集約した「表示の手引き(データベース)」を社内の関連部署に公開し、更なる共有化を進めるとともに、今後はより公正・適切で分かり易い表示を目指し、全社一体となって取り組んでまいります。

製造工程管理

技術開発部門は製品設計の内容をまとめた「製造仕様書」を発行し、工場ではその仕様書に基づき品質規格に適合する商品を安定的に製造しています。

また、工場における品質管理を強化・向上させるためにISO9001に準拠した品質マネジメントシステムを構築し、2001年にはすべての工場で認証を取得しました。そのシステムのもと、使用した原材料のロットや製造工程の運転記録、工程検査記録、製品検査記録等を整備・保管し、製造履歴を追跡できる体制も整えています。



製造工程や製品の微生物検査

衛生管理

2000年にゾーニング規定を策定し、製造場を一般区、清浄区、特別清浄区に区分けしました。製品を容器に充填するエリアは最も高度な衛生管理が求められますので、充填室をクリーンルーム仕様に作り替え、特別清浄区に指定・管理しています。

それとともに、手洗い、服装、製造施設の清掃・昆虫防除基準などを強化して衛生管理規定に組み入れました。このように設備と運用の両面で高い衛生管理水準の維持を図り、万が一にも製品に異物が混入しないように努めています。



クリーンルーム内の充填設備



コンプライアンス活動

誠実で公正な企業活動を通じて、社会に貢献できる企業でありつづけたい。

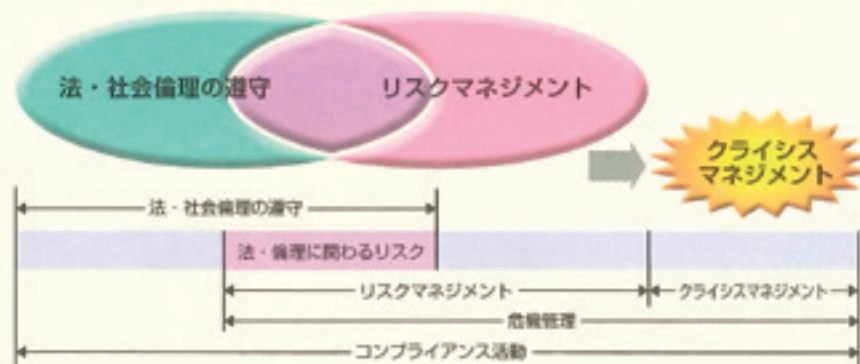
TaKaRaグループは、社会の一員として持続的な発展を続けていくため、環境活動に加えて、法・社会倫理の遵守と危機管理の強化を目指し、2004年4月「コンプライアンス委員会」および活動をプロモートする「コンプライアンス推進室」を設置しました。

私たちは誠実で公正な企業活動を通じて、消費者の皆様から信頼され社会に貢献できる企業でありたいと考えます。

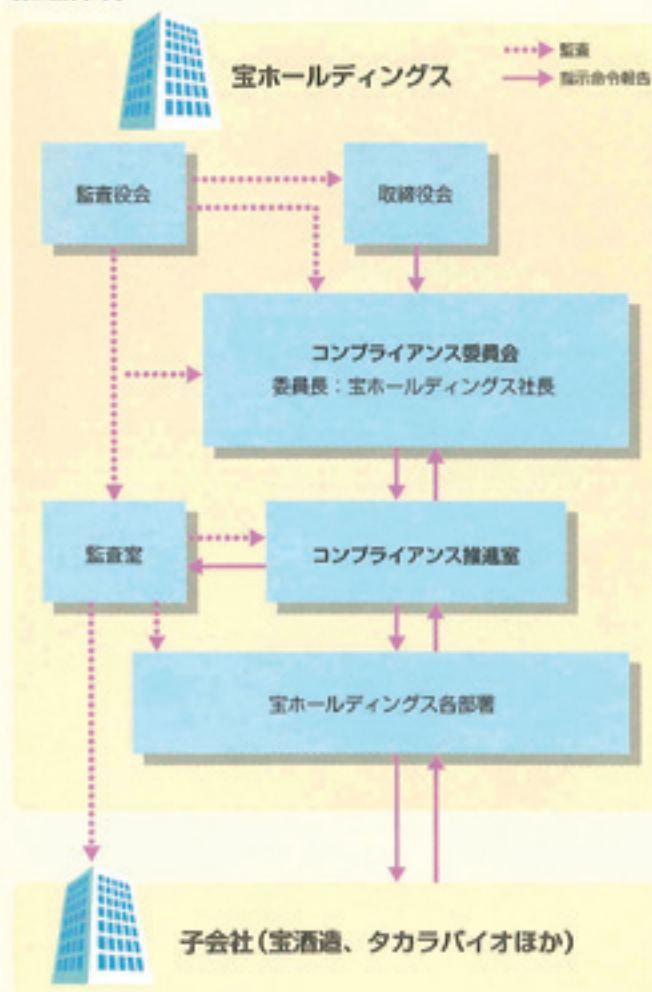
企業価値の向上

TaKaRaグループでは、企業理念、行動基準、長期経営構想とともに、企業価値の向上を目指したコンプライアンス活動の強化に取り組みます。

TaKaRaグループ コンプライアンス活動の領域



推進体制



活動内容

① コンプライアンス活動の領域

「法・社会倫理の遵守」と「危機管理」をコンプライアンス活動の主たる領域と位置づけました。危機管理にはリスクの特定・予防活動等の「リスクマネジメント」と緊急事態発生時の「クライシスマネジメント」を含みます。これらの活動領域は上図の通りです。

② 法・社会倫理の遵守

TaKaRaグループ全社員の一人ひとりが、どのように行動すべきかをわかり易く示した「TaKaRaグループ コンプライアンス行動指針」を作成しました。企業人として、社会人として、守るべきルールを①お客様の視点②人間尊重の視点③自然・社会との調和の視点からまとめ、社員全員に配布の上、周知徹底を図ります。

③ 危機管理

「リスクマネジメント」

企業活動において、潜在するリスクを抽出・評価し、予防的な対策を実施します。出来るところから速やかに取り組む姿勢で対応します。

「クライシスマネジメント」

消費者の安全・健康に危害を及ぼすおそれがある場合や、当社の信用や資産に重大な影響が及ぶような緊急事態において、影響・損失を極小化するために緊急対策本部を立ち上げて対応します。

④ 教育啓発

役員や幹部社員に対するトップセミナー、および事業場の活動推進者に対する研修会などを開催します。また、グループ各社を対象にした教育啓発活動も定期的を実施し、グループ全体へのコンプライアンス活動の展開をはかります。



従業員との関わり

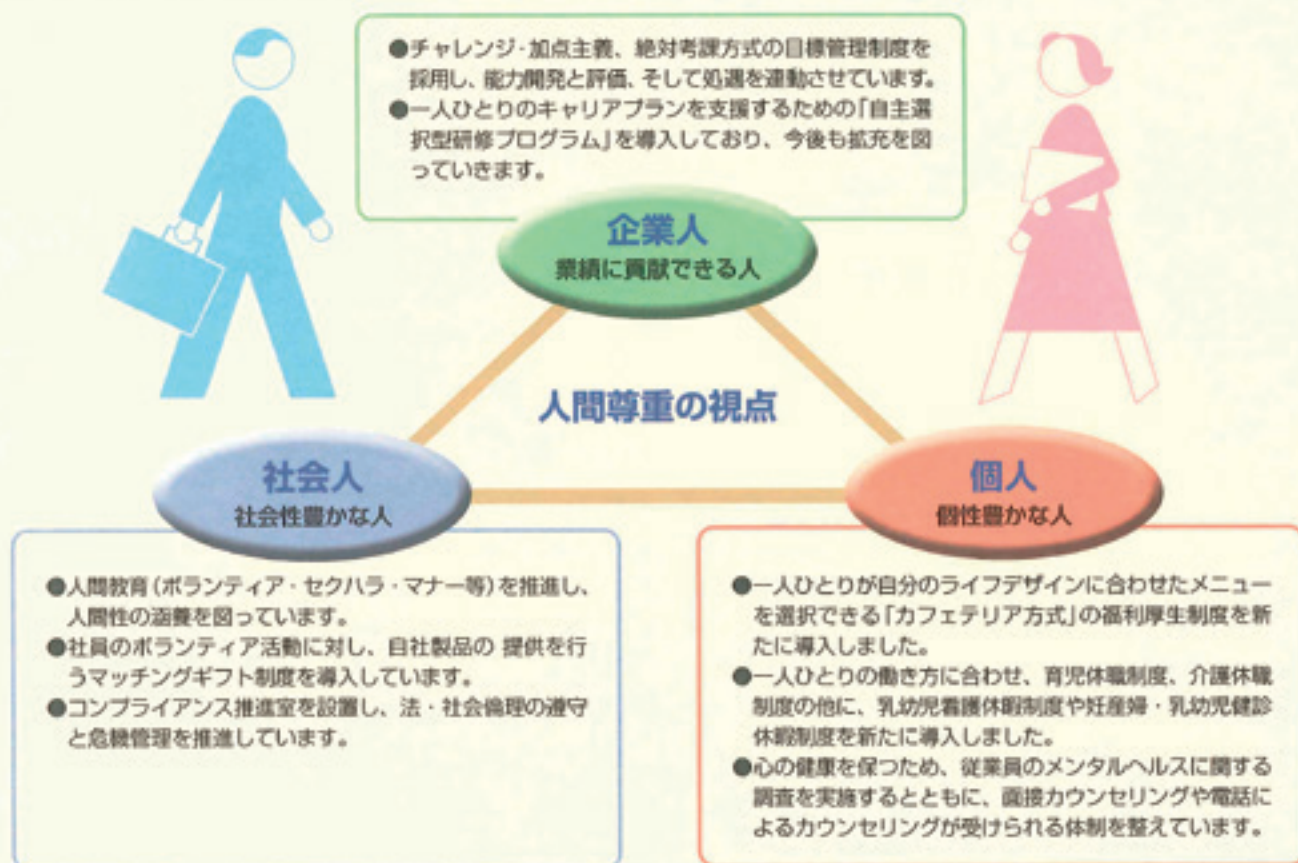
人材は人財、人間尊重の視点を大切にしています。

宝酒造では、「人」はかけがえのない「財産」であるとの認識から「人材」を「人財」と表現します。

人間尊重の視点を大切に「生き生きと明るい働きがいのある職場」と「人を育む風土」づくりに積極的に取り組んでいます。

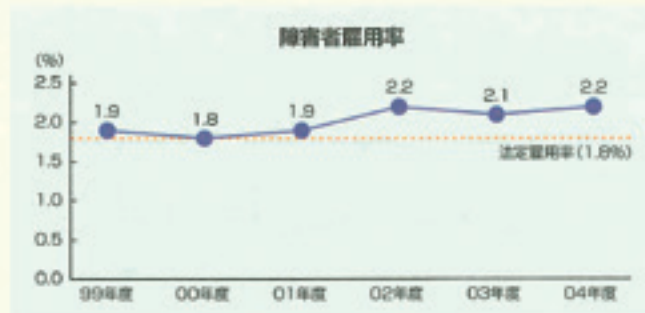
宝酒造の目指す人財像と人事労務施策の主な取り組み

人間尊重の視点到に立ち、「生き生きと明るい働きがいのある職場」と「人を育む風土」づくりを推進し、その中で「企業人・社会人・個人のバランスのとれた人財」を育成することを目指しています。



雇用状況

2004年7月1日現在の従業員数は、1,512名のうち女性は180名です。管理職は290名でそのうち女性管理職は3名です。障害者雇用率は2004年6月1日現在2.2%で法定雇用率である1.8%を上回っています。



安全・衛生

すべての工場において活動方針の中に「安全管理」を組み込み、従業員一人ひとりが健康で安全に働くことができる職場づくりに取り組んでいます。

2003年度の労働災害は不労災害が10件発生しましたが、休業災害は1999年度以降5年間発生していません。

休業災害発生数

	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度
全産業	1.80	1.82	1.79	1.77	—
食品・たばこ	2.60	2.51	2.25	2.77	—
宝酒造	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

度数率：災害発生頻度を表す指数で、延べ100万労働時間あたりの災害件数を表す。
(資料出所：厚生労働省 労働災害動向調査)

気候ネットワーク
事務局長 田浦 健朗

2003年度の成果

第2期の最終年である2003年度は、緑字決算「+11ECO」を達成し、第1期からも継続して改善していることは、まさに、この報告書をはじめとする環境活動の成果であると言えるでしょう。2003年度は生産量が増加したにもかかわらず、過去2年を上回るECOの改善を達成しています。特に第2期から追加された「営業・事務部門」での改善が際立っています。今年度の報告書には、あらたに「環境コミュニケーション」と「コンプライアンス活動」のページが含まれています。どちらも重要な項目であり、企業としての社会的責任を果たされようとする意志を感じ取ることができます。社会貢献活動のページに記載されている、環境NPOとの協力による「お米とお酒の学校設立、リサイクルロード発行」なども、新しい取り組みとして評価できるものでしょう。

一方で、課題もあります。環境目標は6項目中、4項目は達成できていますが、未達成の2項目は昨年度と同じ項目です。厳しい見方かもしれませんが、比較的取り組みやすい項目は達成できるが、ハードルが高い、あるいはコストのかかる項目は達成できない、とも言えます。特に省エネルギー、CO₂削減は、地球温暖化防止のためにも最も成果が求められるものです。品質管理の強化や多様なニーズに応えながら、これらを達成することが困難であることは理解できますが、これまでの延長線上にない新たな取り組みによって成果をあげることを期待いたします。そのために、第3期には、達成されていない項目の重み付けを大きくすることも一案ではないでしょうか。創エネによるCO₂削減の観点から自然エネルギーへの投資なども選択肢の一つであると考えます。

環境活動の統合化と環境コミュニケーションを活かして

環境活動の全社統合化で、一層の体制強化やシステムの充実、包括的な活動の進展が期待できます。これにより、環境重視の社会的な制度づくりやCO₂削減インセンティブの創設に影響を与えることも可能でしょう。同時に、事業所や工場毎の差異や特性などにも配慮して、具体的な現場からの情報や意見も反映できるよう留意することが必要だと考えます。現場の具体的な取り組みによって先駆的な方針や新しい制度が活かされることになるはずです。また、事業所・工場毎の数値目標や具体的削減策なども策定し、報告書またはホームページに記載することで適切な改善や活動の促進につながるでしょう。

環境情報の開示や市民、行政、大学との連携による環境コミュニケーションの促進が図られています。一層の充実が望ましいと考えます。やはり一見しただけでは、この報告書を理解することは容易ではないと思います。報告書についての説明・意見交換の場なども設けることが可能ではないでしょうか。環境情報を伝えるべき人々に伝え、様々な立場の人々からの意見や提案もいただくことができるはずで

第3期への期待

独創的な評価指標及び適切な情報が簡潔に記載されているこの報告書と、毎年改善される環境負荷項目や促進される環境活動は、高く評価されるものと考えます。第3期では、より大きな進展が期待されます。しかしながら、継続的な改善や目標の達成は、より難しくなるはずで、課題として上げられている「質」の改善に加えて、CO₂の総量での削減、社会的制度への影響、環境コミュニケーションの深化など、新たな挑戦に期待いたします。

注) 気候ネットワークは温暖化防止を目的とする全国のネットワーク組織で、特定非営利活動法人です。国際交渉への参加、国内政策の監視・提言、セミナー・シンポジウムの開催、調査・研究、情報の収集と発信、国内外のNGOとの交流・支援などを行っています。

TaKaRa

表紙写真：熊野古道

熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」は、自然崇拜に根差した神道と中国伝来の仏教の両者が結びついた修験道という多様な信仰形態が同じ地域に残る、比類のない霊場・巡礼の道として世界遺産に登録された。このエリアには多くの史跡・名勝・天然記念物・国宝・重要文化財が存在し、広さは3県29市町村にまたがる495.3ヘクタールにも及ぶ。

<世界遺産とは> 世界的に重要な文化・自然遺産を保護するために1972年ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき選定・登録されています。登録数は今までに世界で754カ所。今回の登録で日本では12カ所目となります。

本誌はケナフ(非木材紙)を使用しています。

